

産地戦略

実施主体 群馬県（西部農業事務所担い手・園芸課）
 都道府県 群馬県
 対象地域 高崎市（木部地区）
 対象品目 トマト

実施期間 令和7～12年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

コナジラミ類によるトマト黄化葉巻病や黄化病が問題となっている。コナジラミ類対策には、定期的な防除作業が不可欠だが、ハウス高温下での農薬散布が難しいことに加え、コナジラミ類の農薬への感受性が低下していることなどからウイルス病の原因となるコナジラミ類の防除が難しくなっており、産地の収量に大きな影響を及ぼしている。
 そこで、天敵製剤を軸とした防除体系を生産者・関係機関と連携して導入し、トマト黄化葉巻病・黄化病の効率的な防除と環境負荷低減、夏場の高温対策を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	[作業]					▲▲ 定植		□□□□□□□□ 収穫					
技術名	← 化学合成農薬の利用 →							← 化学合成農薬の利用 →					

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	[作業]					▲▲ 定植		□□□□□□□□ 収穫					
技術名	← 化学合成農薬の利用 →						← 忌避剤の利用 →	← 化学合成農薬の利用 →					
	← 天敵昆虫の利用 →							← 天敵昆虫の利用 →					

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	4.3	▶ 4.3	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.8	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.8	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学合成農薬の散布	▶ コナジラミ類成虫忌避剤 天敵昆虫の導入	化学合成農薬の削減 農薬散布回数の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学合成農薬の削減 天敵昆虫により農薬散布回数の低減	13	▶ 11	R5実績 7 回、R6実績 8 回

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
(有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする)

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

マニュアルを活用した現地指導および技術の普及

関係者の役割

関係者名	群馬県 (西部農業事務所担い手・園芸課)	JAたかさき	JA全農ぐんま	JAたかさきトマト部会
役割	生産技術に係る調査・研究 技術情報による農家指導 栽培マニュアル作成	技術情報による農家指導 栽培講習会等の開催	技術情報による農家指導 栽培マニュアル作成の助言	実証ほの管理 導入技術の検討・検証

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積 (R●) (ha)	備考
※該当なし			

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

※該当なし

その他